



「アメイジヤーで何がいい？」  
「アメイジヤーで何がいい？」

「うわあ、おまえの言ふとおりだ。でも、おまえがおまえのやうな人間でいられるのは、もう少しでいいや。」  
「ううん、おまえがおまえのやうな人間でいられるのは、もう少しでいいや。」

「おまえは今度の出来事で心を病んでるんだよ。」  
「おまえが心配する事ないよ。」  
「おまえが心配する事ないよ。」

「うーん、アタシがどうしたっていいんだよ。お嬢様の心配はさておき、お嬢様の心配をうながすのではなくて、お嬢様の心配をうながさないでほしいんだよ。お嬢様の心配をうながさないでほしいんだよ。」

ハローニュード

ウエル 14 「欠片」

早藤尚  
@saclaughingmar  
2025/05/23 発行



頼い事をする、という行為は  
自己の再認識とも言える。

The illustration features a central white triangle character with a wide, open mouth and thick black outlines for its features. The character's name, "シロドマ" (Shirodama), is written vertically along its right side in a bold, black, sans-serif font. The background is a vibrant purple with a subtle halftone dot pattern. Dark green bamboo branches with long, thin leaves frame the top and right sides of the character. Several butterflies are scattered around; two are white with yellow spots, one is yellow with black spots, and another is a large, solid yellow shape at the bottom left.

「お前くんのへつたくそだな」「え、本当?」  
生まれて初めて指摘されたかのように知人は目をまるくした。織細そうに見える彼は事実織細ではあるのだろうが——手先は大雑把だった。  
「かせ、俺がやる」  
知人の手から短冊の束をひつたくり、四方八方へ曲がった紐をくくり直す。「で、続  
きは」

知人の話は万里の頭では理解が及ばないことも多々あるが、不思議と退屈は感じない。もとより非番の時間を潰すために職場へ押しかけているのだ。多少の手伝いは当然である。普段と違い、今日の彼は仕事部屋ではなく中庭にいた。緑の芝生に不似合な長机を置き、大きな鉢植えの笹の前で紙を切り折りする姿はあるで学校の先生だ。あいにく生徒は誰もおらずひとりきりの作業ではあったが。「意外とリフレッシュになるんだよね」とは「誰かの手でも借りたらどうだ」と万里がすすめたあの知人の言である。

「願い事ね」知人は白衣の裾で自らの眼鏡を拭きながら話し出した。  
「願い事って、言つてしまえば『欲』でしょう？　あんなことがしたい、こんなもの  
がほしい……。こうなつてほしい、ああたりたい。『欲』であり、同時に『望み』だ」  
「まさに欲望つてモンだな」

「そう。欲望、つて言うとあまり良い印象はしないかもしねないけれど、例えば今晚  
は美味しいごはんが食べたい、今日は疲れたから早く休みたい。そんな身近な欲でい  
い。健常な精神であれば、多かれ少なかれ誰しもが持つて当たり前のもの。今日の万  
里くんなら、『暇を潰したい』かな？」

面と向かつて口にされると、彼を便利品扱いしているようで言葉に詰まる。「訪ね  
くれて嬉しいよ」そうは言うものの、万里の気が済まない。「わりイ、今度何か奢る」  
「へ、ござい」と答へた。

るんだ。酒や薬と同じだね。過剰に抱くのも良くないけれど、なさすぎるのもまた良くはない。適宜適量が大切」「あまりに大きすぎる欲は身を滅ぼすってか」「そこまで大それた話ではないけれど」と、眼鏡をかけ直し、知人は笹の葉を見上げる。今日はあいにくの曇天だが、さらさらと装飾を揺らす風は思いのほか涼やかだ。予報では、確かに明朝から雨とあつただろうか。